

# 25年の研究成果が実り ブリ黄疸の原因は新科の細菌であることを発見

体の色が黄色くなり急に死んでしまふ病気がブリ黄疸（細菌性溶血性黄疸）です。1980年代前半から養殖ブリで問題になっています。原因不明の病気でしたが、93年に水産庁養殖研究所（現水産研究・教育機構 増養殖研究所）が原因菌を特定し、論文を発表しました。しかし、培養が難しいことなどから、この菌の分類などの説明は進んでいません

でした。

当機構は、共同研究機関である東京海洋大学や大分県と協力し、ブリ黄疸原因菌の脂肪酸組成、極性脂質組成、薬剤感受性や遺伝子配列などを詳しく調べました。その結果、この菌は分類学的に新しい科に属する種類であることが分かりました。

原因菌の発見から25年経過して、新たに発見した細菌として、イクチオバクテリウム科 (Ichthyobacteriaceae) イクチオバクテリウム属のイクチオバクテリウム・セリオリシダ (*Ichthyobacterium seriolici*) と命名しました（写真1、2）。細菌は、門V綱V目V科V属V種V順で階層的に名前が付けられているので、新科の細菌が見つかることは新種の細菌が見つかることよりむしろかに珍しいことです。

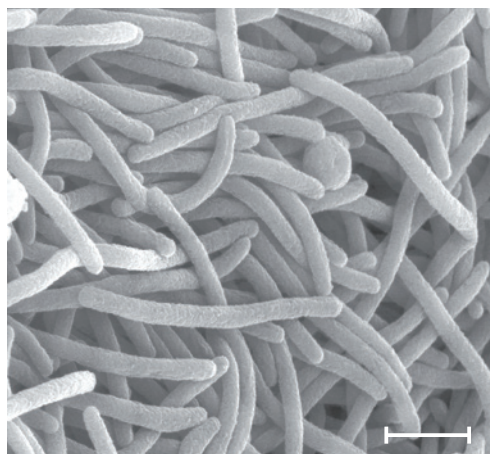


写真1 培養したイクチオバクテリウム・セリオリシダの電子顕微鏡写真

\* 写真中の白線は1マイクロメートル（1ミリメートルの1000分の1）

\* 細長い一つひとつが本菌

イクチオバクテリウム・セリオリシダ

赤血球

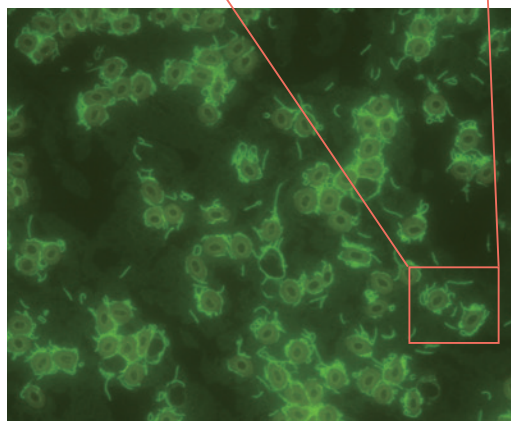
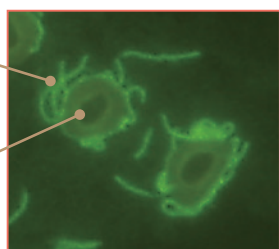


写真2 ブリの赤血球に付着するイクチオバクテリウム・セリオリシダ

\* ドーナツのように見える赤血球の表面にまとわりつく明るいヒモ状のものが本菌

※この成果は、農林水産技術会議委託事業「遺伝子情報を利用した難培養性病原体に対するワクチン技術の開発」によるものです。